



特集

座談会—国際文化学部のめざすもの

世界とつながり、 社会を変える。

特集2 研究活動のさらなる展開に向けて

卒業生インタビュー

柚木 和代さん/sankaku(わたなべしゅんすけさん、岸本 亮さん)

～ご支援くださる皆様へ～ (ご寄付のお願い)

本学のさらなる教育・研究活動の充実、学生生活の支援のため、
ご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

●寄付募集Webサイト

<https://www.kyoto-seika.ac.jp/about/donate>
新型コロナウイルス緊急対策支援の募金を行っております。
学生への緊急支援を実施するにあたり、皆様のお力添えを
お願いいたします。



●古本募金 Webサイト

<http://kishapon.com/seika>
読み終えられた本やDVDなどが京都精華大学への寄付となります。

2019年度は、総額8,658,186円(個人・法人あわせて166件)のご寄付をいただきました。
古本募金は、保護者や卒業生など多くの方々から4,851冊の書籍類のご提供を受け、合計で
170,501円のご寄付となりました。ご協力いただいた皆様、まことにありがとうございました。

お問い合わせ(リーフレット請求先)
京都精華大学 経営企画グループ 寄付募集担当

E-mail:kikaku@kyoto-seika.ac.jp
TEL 075-702-5201
FAX 075-702-5391

『木野通信』送付先ご住所等の変更を希望される方は、
木野会ホームページまたはFAXで変更事項をご連絡ください。

京都精華大学 経営企画グループ 木野会事務局
<http://seikajin.com>
FAX 075-702-5391

表紙の作品

『海の記憶』 2019年度 卒業制作
岩井 まどかさん
芸術学部 テキスタイルコース

素 材：型染め、撒き糊、ステンシル、絹、酸性染料
サイズ：200×300 cm

磯の匂いを吸い込んで、波の音に耳を澄ませたあの場所。
地元を離れ、京都に来たからこそ、地元を知りたくなりました。地元を見たくくなりました。



京都精華大学

芸術学部

[造形学科]
洋画専攻
日本画専攻
立体造形専攻
陶芸専攻
テキスタイル専攻
版画専攻
映像専攻

デザイン学部

[イラスト学科]
イラストコース
[ビジュアルデザイン学科]
グラフィックデザインコース
デジタルクリエイションコース
[プロダクトデザイン学科]
プロダクトコミュニケーションコース
ライフクリエイションコース
[建築学科]
建築コース

マンガ学部

[マンガ学科]
カートゥーンコース
ストーリーマンガコース
新世代マンガコース
キャラクターデザインコース
マンガプロデュースコース
ギャグマンガコース
[アニメーション学科]
アニメーションコース

ポピュラーカルチャー学部

[ポピュラーカルチャー学科]
音楽コース
ファッションコース

人文学部

[総合人文学科]
文学専攻
歴史専攻
社会専攻

大学院

芸術研究科
デザイン研究科
マンガ研究科
人文学研究科

※2021年度に国際文化学部、メディア表現学部、人間環境デザインプログラムを設置予定です。

木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第74号
2020年7月1日 発行

京都精華大学 広報グループ
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5197 www.kyoto-seika.ac.jp

本冊子は文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に係る交付金から一部支出しています。

国際文化学部をめざすもの

「現場」に学んだ経験が世界とつながり、社会を変える。



京都精華大学が2021年に新設する国際文化学部。

「グローバルとローカルの視点」個人として世界とつながる力」を掲げていますが、それは具体的にどのようなことでしょうか。

国際的なフィールドで活躍する卒業生の新田英理子さんと角田長基さん、そしてウスビ・サコ学長が、東京・ベトナム・京都を結びリモート座談会で語り合いました。

フィールドワークが精華の力

まずは簡単なご経歴と現在のお仕事を教えてください。

新田 人文学部ができた1989年に入学した学部一期生です。卒業の前年にバブル崩壊がありました。わたしは幸い民間企業に就職でき、3年半ほど勤めました。その後の98年、まだ特定非営利活動促進法(通称・NPO法)が施行される

前でしたが、「日本NPOセンター」という団体に入り、20年間職員として勤めました。大学時代に入権や差別、環境問題などの講義を受けたことや、タイで半年間フィールドワーク(現地調査)をした経験をきっかけに、ボランティアや非営利活動に強い関心を持ったんです。

そして現在は、SDGs市民社会ネットワーク」という一般社団法人で、事務局長を務めています。国連が採択したSD

Gs(持続可能な開発目標)の理念や17ある目標を社会に広め、国内と国外の動きをつなぎながら、市民主体の「生活者目線」でSDGsを実現していこうという仕事です。

角田 僕は、人文学部に入ったのが1999年。2回生まで学園祭の実行委員をやっていました。3回生になる年にサコさんが精華に赴任され、なんだか面白そうだと軽い気持ちでゼミに入ると、そこからは毎日、サコさんやゼミのみんなと一緒に過ごすようになりました。サコさんの母国のマリに行って大きな影響を受け、卒業後しばらくはアフリカに関わる仕事をしたり…

サコ 角田さんの下宿近くのカフェに私がいいたら、しょっちゅう現れて、ご飯をおごらされたりね(笑)。

角田 ありましたね。でも一回だけです(笑)。で、現在は四大会計法人の一つ「KPMG」という多国籍のコンサルティング会社のジャパニーズという立場で、ベトナムのホーチミンにいます。仕事は、日系企業の会計・税務、リーガル(法務)、M&A(企業の合併・買収)など各種のコンサルティングです。日系企業は日本人としか仕事をしづらい傾向があり、文化も独特です。ビジネス上の会話もハイコンテクスト(文脈や背景の理解が必要)ですから、現地の企業や専門家との間を横断的に橋渡しする、僕のようなコミュニケーションが必要になるんです。

——人文学部出身のお二人がグローバルに活躍されているわけですが、その人文学部が再編され、国際文化学部となりました。新学部開設の経緯と方針を学長からお願いします。

サコ 私が精華の教員になった2001年当時、印象的だったのは、学生たちの「人間力」です。バイタリテイにあふれ、授業や学内行事、教員との交流や遊びまで、すごい熱意を持って取り組む。そんな学生との関係が私たち教員にも刺激的でした。それが時代とともにだんだん管理主義的になり、学生にも教員にも余裕がなくなってきた。人文学部は、私の学部長時代も含めて何回か再編をしました。が、学生もなかなか集まらなくなってきた。今回の国際文化学部の最大のねらいは、原点に立ち返り、人文学部が持っていたよさを取り戻そうということです。

で、精華の人文の力とは何だったかと考えると、フィールドワークなんです。学生が長期間、好きな土地や環境に身を置き、国外でも国内でもその経験を通じて人間として成長してゆく。文化の違いや社会課題を発見し、解決策を考える。そして、自分の価値観を見つめ直す。座学だけでは得られない、経験による学びを重視したい。二つある学科のうち、人文学科は現在の人文学部を受け継ぎ、歴史や日本文化などの専攻を設けます。一方のグローバルスタディーズ学科は、今後成長するアフリカやアジアに重点を置きますが、それらの地域をどう取り込み、

経済的に利用するかという従来の視点ではなく、地球規模のネットワークのなかで課題解決や共生を考える。ローカルとグローバルは別々に存在するのではなく、つながっています。足元のローカルな課題に取り組むうち、グローバルに展開していけばいい。新田さんと角田さんも、精華でのフィールドワークをはじめ、さまざまな経験を積み重ねて自分の道を見つけ、社会を変革する方法を手に入れた。国際文化学部の理想的なモデルと言えるでしょう。

世界のつながりを実感すること

新田 わたしがフィールドワーク先にタイを選んだのは、あの当時、アメリカやオーストラリアならいつでも行けるけど、タイに半年間滞在して現地の大学に通い、自分のテーマで好きなことも学べるとい

うのは、精華でしかできないと思っただけの一つ。それと、格差や貧困の問題に興味があったからです。日本の経済力が伸

び、ODA(政府開発援助)で世界一になった時代でしたが、一方、現地では格差が広がったり、環境破壊が起きたりしていた。タイではスラムに通い、一緒にご飯を食べ、現地のNGOの活動を体験しました。卒業旅行は、フィリピンのスモークマウンテン(ゴミの山にできた巨大スラム)にも行き、大学時代にしかできないと思っていた経験をさせてもらいました。振り返ってみると、わたしは高校まで、この社会に差別や不平等があるということを身近に感じたことがなかったんです。でも大学の講義で、平和で豊かだと思っていた日本にも問題がいろいろあることを知り、友達と議論するなかで自分が感じる田舎出身のコンプレックスも、実は都市と地方という社会構造の問題なんだと気づいた。では、そういう問題が起こらないとは何か、と考えるようになったんです。

サコ 異文化に触れると、自分や日本の問題に気づくんですよ。最近はいんな、違う世界を見ようと思っ、自分さえよければいいんだと思っ。でも、今回のコロナ禍で、世界がリアルにつながっていることが突きつけられた。中国武漢で起きたことが世界を麻痺させ、経済偏重のグローバリズムは、ふだん生産国や原価を意識することもなかったマスクや食料を入手困難にする。「自分も何かしなきゃ」という気持ちは、こうして問題を

実感することから始まります。**新田** コロナ対応にこそ、「誰一人取り



大学時代の経験をきっかけに差別や不平等に関心をもちました(新田)



ウスビ・サコ 学長

2001年より京都精華大学人文学部教員。2018年より学長。社会と建築空間の関係性をさまざまな角度から調査研究を進めている。



角田 長基 さん

2004年人文学部卒業。会計事務所勤務等を経て、現在はKPMGベトナムにて投資・会計・税務・法務・人事等コンサルティングに従事。



新田 英理子 さん

1993年人文学部卒業。現在一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク理事・事務局長。パートナーシップの発揮、SDGsの達成をめざし、活動中。

特集2 研究活動のさらなる展開に向けて

京都精華大学には現在3つの研究センターがあります。
国際マンガ研究センター、伝統産業イノベーションセンターに加え、
2020年度から新たにアフリカ・アジア現代文化研究センターを設置しました。
国や分野を超えた創造的な活動を展開し、より一層研究力を高めます。

多様な人々の交流を通して 従来の枠を超えた研究活動を推進

アフリカ・アジア現代文化研究センター
創造戦略機構 准教授

清水 貴夫



当センターは、アフリカや日本も含めたアジアのさまざまなアクターが、学び、実践し、表現することで、現代文化を総合的にとらえようと立ち上げた機関です。アクターは学内外の多様な研究者やアーティスト、市民であり、こうした人びとが入り出すサロンのような場とするのも目的のひとつ。実践、表現の場としての環境を整え、新しいものが生まれるハブの機能ももたせたいと考えています。現在は、すでに複数のプロジェクトが進行中です。イスラームについてムスリムの生活レベルからとらえなおし、新たな在り方を探る研究や、現地作家の協力を得て陶芸からアフリカ・アジアの風土を読み解く研究などです。学内での機能としても、あらゆる学部の教員や学生同士と一緒に何かを構想し、創造する場にしていきたいですね。

伝統産業の知見を紐解き 未来へつなげる

本学は学生が伝統産業の工房に通い、手仕事の技やその精神性を学ぶ学外実習を1979年に開講させました。その知見を集約し、より活発な教育研究活動につなげるため2017年に設立しました。世界有数の工芸産地・京都を拠点に、さまざまな国や地域の手仕事と関わり、伝統産業における諸課題の解決に取り組む社会連携プロジェクトを進行。各学部の特性を活かした活動を通じて得た教育研究資源を社会へ還元し、未来へつなげることをめざしています。

伝統産業イノベーションセンター

1973年度の美術科マンガクラス設置以来、国内外のマンガ研究をリードしてきた本学の豊富な実績を活かして2006年に開設。博物館と図書館の機能を併せ持ち、世界中から利用者が訪れる「京都国際マンガミュージアム」の中核を担う研究機関です。マンガに関するコンサルタントやイベントの企画・運営、研究調査やレポートの作成など広範囲にわたる取り組みを実施してきました。また近年では2019年5月に大英博物館で開催された「Manga展」にも当センターの研究員が深く参画しました。

国際マンガ研究センター

アフリカ・アジア現代文化研究センター(2020年4月開設)

近年ますますダイナミックな展開を見せるアフリカ・アジアの現代文化。この領域は、文化の実践者と研究者、そして受け手が一体となり追求されていく必要があります。アフリカ・アジア現代文化研究センターは、より実践的かつ直接的な交流から、アフリカ・アジアの現代文化のなかに読み取れる新たな世界秩序の意義や在り方を探るうとすることを目的に設立しました。最大の特徴は、グローバルな視座に立ちながら、ミクロな視点からも研究を進める点にあります。アフリカ・アジアをフィールドとする研究者やアーティストを積極的に受け入れるとともに、2021年度より開設される国際文化学部や、他のさまざまな学部の教育研究活動ともリンクする研究拠点をめざします。またここでは、論文を書く、学会で発表するといった従来の学術研究の形式のみならず、詩や歌、舞踊や演劇、絵画や造形、映像やWebなど、多様な手法による表現そのものを研究の成果として柔軟にとらえます。現代文化の研究は、それ自体が生まれる市民生活のなかに落とし込むことで真の意義を発揮します。市民のなかに文化創造者をつくりだす人材育成の一端も担い、学術・芸術分野の人的交流とおして研究の新たな潮流を生みだし、文化の創造を志します。

国内外のマンガ研究を リードしつづける拠点機関

残さない」というSDGsの理念が必要だと、わたしたちは声明を出しました。「経済のV字回復」を唱えるだけでは、みんなが「どこかおかしい」と感じている今の世界は変わらない。こういう世界をめざすんだという一貫した理念を掲げること、未来世代へのツケを少しでも減らせると思っています。

社会貢献とビジネスを両立する

サコ 角田さんはゼミ旅行でマリに行った時、一人だけ向こうに残って、ドゴン族の村に長期滞在してたよね。マリ出身の私もそんな経験したことないのに(笑)。
角田 日本と比べて文化的、経済的、地理的に大きな違いがある一方で、人間として多くの共通点があることを実感しました。そうした経験をテーマに卒業論文をまとめたんですが、「異なる背景を持つ人達とどうやって面白く生きていくか」は今でも僕の人生のキーワードになっています。マリに3カ月滞在し、帰国したのが4回生の秋。さあ就職先を探そうと思ったら、もうとっくに就活シーズンは終わっていた(笑)。アフリカからの輸入卸売りの仕事をしたり、西アフリカ各国の舞踊団を日本に呼んで公演を企画したり、アフリカをテーマにした飲食店を経営したりと、20代はずっとアフリカ関係の仕事をしていました。

多様性を面白がる「人間力」を

最後に、精華の国際文化学部に向けて
—— 最後は、精華の国際文化学部に向けて
することを願います。

新田 多様性を面白がり、尊重し合える人を育ててほしいというのが一つ。それと、人権に対する感覚を高めることでしようか。社会や文化は人間がつくっていくものなのに、今の日本では人間を大切にすることが国際基準に達していないと感じます。言葉はあるけど、生活感覚のなかに腹落ちしていない。だからこそ学生のみならずには、自分自身を含め人間を大切にすることを体感してほしいです。
角田 大学への期待というより、自分が



「異なる背景を持つ人達とどうやって面白く生きていくか」が人生のキーワードです(角田)

人生を楽しむ方法なんですけど、一つは「現場とソリューション」。実際に現場に行き、自分の目で見て感じたうえで、世界中から最も適切なソリューションを探す。課題に向き合い、主体的に解決しようという姿勢は、人生を面白く独自の個性のあるものにしてくれます。二つ目は自分が勝負できる場所を見つけること。世の中には情報のインプットが早く、再現することが得意な人がたくさんいます。そういう意味で「優秀」な彼らと100m走で競う必要はない。自分が勝負できるのは複合競技かもしれないし、新しい競技をつくってもいいかもしれない。そんな人がのびのび自分の方向性を追求できるのが、精華の魅力かなと思います。

サコ お二人の話伺い、精華のよさは「人間力」を育てられるところだとあらためて感じました。異なる文化や意見を否定しない。違いを認め合って楽しむ。国際文化学部でも、その点を伸ばしていきたいと思えます。

TOPICS

明窓館が新しくなります。 2021年度竣工予定

現在、京都精華大学では、人々のバックグラウンドや属性を理由にした不自由、差別、排除がないキャンパス環境を着実に整えるための計画が進行中です。その一環として、48年間親しまれてきた「明窓館」も新しく生まれ変わります。新・明窓館(仮称)がめざしているのは、国内外問わず多様な人々が訪れ、学生や教職員が交流し互いに成長するグローバルな場。学生の自主的かつ主体的な学びを支えるため、いつでも自由に使用でき、議論や制作等にも活用できるラーニングコモンズとしての場。そして、目的や規模に応じてさまざまなに対応できる大学活動の発表情報発信の場です。天ヶ池や水路などの学内の自然環境も活かせる形で、キャンパス全体が融合していくような設計となる予定です。



完成イメージ



ひとつひとつ、着実に
新しい映像の世界を拓いていく



さまざまな業種をまたいで全力疾走
仕事を通じた出会いが人生を豊かに

クリエイティブユニット
sankaku

わたなべしゅんすけさん
芸術学部 デザイン学科 映像コース
2004年卒業
岸本 亮さん
芸術学部 デザイン学科 映像コース
2008年卒業

卒業生インタビュー

柚木 和代さん
Kazuyo Yunoki

J.フロント リテイリング株式会社
執行役常務 関連事業統括部長
美術学部 デザイン科
1983年卒業

独自の道を歩む京都
現在の活動や今後の夢、

精華大学の卒業生に、
セイカの思い出を伺いました。



クラムボン「夜見人知らず」MV

大人気テレビアニメのオープニング映像や海外アーティストのMVから、水族館のプロジェクトやマッピングまで。わたなべしゅんすけさんと岸本亮さんによるクリエイティブユニット「sankaku」は、2011年の設立以来、作品ごとに異なる手法や世界観を展開し、幅広いフィールドで活躍しています。彼らの強みは、アイデアの提案から制作まですべてを請け負えるところ。「特殊な映像表現を求められたり、企画段階から任されたりすることも多く、仕事によって関わり方が全く違う。それが仕事のおもしろさにつながっていますね(岸本)。

ふたりは大学で過ごした時間のなかで、その表現活動の基盤が築かれたといえます。「授業のなかで出された課題と全然違うものを提出したりしていましたが、批判されずちゃんと作品として評価して

セイカの思い出

良い意味で自由な大学でした。今の学生さんにものびのび活動していただきたいです。



大丸松坂屋百貨店、パルコなどをグループに持つJ・フロントリテイリング株式会社で関連事業統括部長を務める柚木和代さん。金融、建設、商社、人材派遣など種々多様な事業の経営管理に携わっています。「関連事業各社の成長戦略の推進と経営管理が私の仕事です」。


柚木さんはデザイン科(当時)出身。学部学科の垣根がない自由な校風だったと振り返ります。「先生方との距離も近くて、視野を広げることができました」。

卒業後は百貨店の広告デザインに興味を持ち株式会社大丸(当時)に入社。その後、パリでの海外駐在、営業企画などの経験を積むなかで、徐々に店舗全体をマネジメントする仕事にやりがいを見出しました。札幌、神戸の大丸の店長も経験し、2015年には株式会社博多丸の代表取締役社長に抜擢されました。

「店長や社長というのは、いわば総合プロデューサー。地域や顧客のニーズに合った百貨店のあるべき姿を考え、社内外で働くさまざまなエキスパートの皆さんとチームをつくって実現させていくん

セイカの思い出

木野祭のときに友人と共に建物から建てた模擬店です。(岸本)



もらったことをよく覚えています。自分がいいと思うものに対する自信がつきましたね(わたなべ)。特に印象に残っているのは、木野祭などで他学科や他学年の学生と共に模擬店やイベントをおこなったこと。「在学中は祭に限らず、さまざまな分野を学ぶ学生と共に何かをつくる機会が多くありました。趣味嗜好が異なる人たちとの付き合いのなかで刺激を受け、多様性を知り、表現の幅を広げられたことが今の僕たちの財産になっています(岸本)。

今後の目標は、「長く活動を続けること」。アニメーションや映像制作の現場では、彼らのように少人数で全工程を実践するクリエイターは珍しいため、手本となる先人がおらず、どうすべきか常に考えているそうです。「でも、学生時代からスタンスは変わっていないんです。まずは好きなもの、やりたいことを突き詰める。そのうえで、クライアントに喜んでもらえるものをつくることで、息の長いクリエイターとして、道を拓いていくのではないかと思います(わたなべ)。

パリ駐在時代。
ロンシャン競馬場でのエルメス杯のパーティに出席



音楽／映画の第一線で活躍する講師を招いた公開講演会を開催



開学以来続いている、京都精華大学の公開トークイベント「アセンブリーアワー講演会」。

2019年11月には、ビートメイカー/DJ/プロデューサーのSeiho氏を迎えて「好きだとさえ、好きと歌った」が開催されました。

学生時代からDJとして活動し、2011年のデビュー以降国内外から注目されるSeiho氏。当日は、会場の設営を本学学生が担当したライブパフォーマンスも。音を通じて人はプラスの感情を共有できること、芸術のコンテクストを読み解く力は努力で身につけられることなどが語られました。

12月には映画監督の今泉力哉氏

を迎え「何も伝えたいことなんてないけど何かをつくりたい人たちに」が開催。

今泉氏は、会社勤めをしながら自主映画を作り続け、2010年に商業デビュー。以降、継続的に長編映画を発表してきました。今回はデビューまでの経緯や創作活動についての考えなどを語ってくださいました。「伝えたいことがない人が創作をしてもいい。あせらなくてもいい。世の中の『普通』を疑うことが大事。それによって、自分の位置がみつかっていく」。この今泉氏の言葉には会場の学生たちも勇気づけられ、講演後も個別の質問が止みませんでした。

アセンブリーアワー講演会
「好きだとさえ、好きと歌った」 Seiho
2019年11月14日(木) 京都精華大学 友愛館アゴラ

「何も伝えたいことなんてないけど何かをつくりたい人たちに」 今泉力哉
2019年12月5日(木) 京都精華大学 友愛館アゴラ

不服従とは仲間意識である——「自由」と「表現」の可能性



2020年2月、被災地や難民キャンプで「国境なき医師団」の取材を重ねる作家・クリエイターのいとうせいこう氏と、本学の国際化と研究活動のため年間10以上の国々を訪れるウズビ・サコ学長による、岡本清一記念講座「けれど、人間には仲間がいる。」が開催されました。本講座は初代学長・岡本の掲げた建学の理念を受け継ぎ、広く普及するために開設。今回は、現代のシビアナ世界における「自由」と「表現」の可能性について語りました。

当日は幅広い年代の人々が会場は満席。難民キャンプや被災地の話に、真剣に耳を傾けメモをとる姿が多く見られました。

後半は「自由」そして「表現」の可能性の話に。若い世代が「個」を見せにくい現状をどうすべきかというサコ学長の問いに、いとう氏は「違う意見や行動をもっと大人が褒めたほうがいい。ポジティブな言葉が行きかう社会をめざすべき」と語られました。

人のために尽くす意義をいかに教育するかというサコ学長の投げかけには、「仲間とは違う考えの人がいてこそ面白い。不服従は、実はだからのためであり仲間意識である。だから『人間には仲間がいる』ほうがいい」と、いとう氏。自らの経験も交えながら、若い世代に向けて力強いメッセージを送りました。

第11回岡本清一記念講座
「けれど、人間には仲間がいる。」
いとうせいこう×京都精華大学学長 ウズビ・サコ
2020年2月1日(土) 京都精華大学 友愛館アゴラ

京都精華大学展は盛況のうちに閉幕。塩田千春レクチャーも開催



「京都精華大学展2020 卒業・修了発表展」
2020年2月12日(水)～2月16日(日) 京都精華大学

イベント
塩田千春 特別レクチャー「表現しつづけること」
2020年2月8日(土) 京都精華大学 明窓館M-201

「京都精華大学展2020 卒業・修了発表展」が2020年2月12日から16日にかけて開催されました。卒業・修了する学生たちが本学で培った技術や表現力の集大成として、作品や論文をキャンパス全体を用いて展示しました。展示のほかに、ライブペインティングやグッズ販売、公開作品講評会など、各専攻の学生たちによる幅広い表現が展開され、大いに盛り上がりしました。

また本展のイベントとして、世界で活躍する美術家で、本学卒業生の塩田千春さんによる特別レクチャー「表現しつづけること」が2月8日に開催されました。

塩田さんは、学生時代を振り返りながら、2019年に森美術館で開催された大きな話題を呼んだ「塩田千春展…魂がふるえる」をはじめとする個展の作品スライドを一点一点丁寧に解説。

後半の質疑応答では、在学生から「学生時代に何のために作品を作っているのか分からなくなったのですが、現在、その答えは出たのでしょうか」との質問が。塩田さんは「10年後に『絵は心で描けばいい、目で描くものではない』と気づき、日記のようにドローイングが描けるようになった」と答えました。当日は天気にも恵まれ、卒業・修了発表展の搬入の手を休めて聴講にくる学生の姿も多く見られました。

マンガ教育・研究をリードしてきた教員、竹宮恵子の最終講義



アセンブリーアワー講演会
「【最終講義】扉はひらくいくたびも」
竹宮 恵子
2020年1月8日(水) 京都精華大学 明窓館M-201

2020年1月、マンガ学部教員竹宮恵子の最終講義として、アセンブリーアワー講演会「【最終講義】扉はひらくいくたびも」が開催されました。

竹宮は2000年にマンガ学科教員に就任以来、マンガ学部長、国際マンガ研究センター長、学長を歴任。2020年3月をもって定年退職を迎えました。

講義ではマンガを描くようになったきっかけ、上京時の話、本学での時間などを振り返り、これまで出会った「扉」について語りました。扉とは「思いがけないものを見せてくれるもの」「考えるきっかけを与えてくれるもの」そして「選択を迫るもの」と竹宮は

言います。扉を開けた事実を受け止めること、そして時には、開けた扉を自らの意思で閉め、次の扉に進むことの大切さを語りました。「マンガは考えることを私に課しました。そのおかげで私は成長することができた。想像の世界の扉は、この瞬間も開いたり閉じたりしています」という言葉で最終講義は締めくくられました。

質疑応答では、20年の教員生活での学生の変化を問われ、若者たちが窮屈そうになっていると回答。「不安は自分で作る幽霊のようなもの。挑戦の大切さを知ってほしい」と、メッセージを送りました。

講演会終了後、学生や来場者からたくさんのお花束が贈られました。

木野からヤツホー

あの先生元気かな...?
そう思っている卒業生のみなさんへ、
セイカの教員からのメッセージです。



1. 島根県松江市の小泉八雲記念館にて。八雲愛用の机に座らせてもらう。37年前にもゼミ旅行でここを訪ねた(堤)
2. 『Ophelia』素材ポリスチレン 技法ニット(上野)
3. 『Merry gates』2020年 Sculpture By The Sea Cottesloe オーストラリア パースでの展示(内田)



写真:Richard Watson

早くも15年。
楽しく元気でやっています。



内田 晴之
芸術学部 造形学科

みなさまお元気ですか？私が母校精華大学の教員になってから早くも15年。大学も大きく変わりましたが、取り巻く社会も大きく変わりました。ボタン一つ押せば明日には商品が配達される、とても便利な社会になりましたが、ちょっと窮屈な感じもしています。15年前、岩倉王将の出前をみんなで食べた卒制が思い出されます。この文章を書いている4月21日、サコ学長より、コロナウイルスの影響で前期を遠隔授業にするとのメールが来ました。想像すらしていなかった、ありえない事が起きてしまいました。みなさんが木野通信を目にする頃には、状況が良くなっていればいいのですが、お体ご自愛ください。私は相変わらず楽しく、元気でやっています。

かつて経験したことのない日々、
少しでも前に進みましょう。



上野 真知子
芸術学部 造形学科

2020年春以来、私はかつて経験したことのない、異常な数か月を過ごしてきましたが、卒業生のみなさんへご無事にお過ごしでしょうか？私はセイカで制作実技の授業を担当しているので、遠隔授業の難しさに悲鳴を上げる日々でした。しかし、実際に自宅などで制作を行わなければならなかった在学生たちは、私たち教員よりも、もっと大変だったと思います。そしてこの数か月は、多くの卒業生の方々の顔が浮かび、気にかかる日々でもありました。これからも、さまざまな困難な事態に直面することもあるかと思いますが、みなさんも私も少しでもポジティブに、前に進めることを願っています。

私たちを見守り続けた
メイソウさん、また逢おう。



堤 邦彦
人文学部 総合人文学科

コロナ対策で人影のなくなった4月をはじめの大学構内に重機の音が響いた。明窓館の建て替え工事が始まったのだ。短大時代、ここで卒業式を行った日のことが懐かしい。フォークソング部や演劇部に馴染み深いM104もこの館の歴史を語るには欠かせない。「ヌシ」が棲みついているという。メイソウさんと呼ばれるヌシは、この館につどう精華生を見守り、畏怖の対象となってきた。芝居の安全を祈り、盛り塩をしてメイソウさんをお願いする儀礼がM104の暗闇で執り行われたものだった。私が大学に勤めるのもあと2年。今、心から感謝の気持ちを伝えたい。—メイソウさん、ありがとう！そしてまた逢おう...

2019年度退職、2020年度入職教職員一覧

退職教職員

【教員】

- 芸術学部 河村源三 相内啓司
- デザイン学部 ケンクウヒデキ 佐藤守弘 スーゾー甘金 角田純
- マンガ学部 東村アキコ
- 人文学部 齊藤紘子 レベッカ・ジェニスン
- 大学院 マンガ研究科 竹宮恵子

新任教職員

【教員】

- 芸術学部 岡崎乾二郎 客員教員 美術史
- デザイン学部 吉村 敏治 陶芸専攻/大学院芸術研究科 陶芸
- 河井 敏明 客員教員 建築設計
- 岸川 謙介 建築コース/大学院デザイン研究科 建築設計
- 倉澤 洋輝 グラフィックデザインコース
- エディトリアルデザイン グラフィックデザイン
- 呉 越 イラストコース グラフィックデザイン
- 西村 正幸 イラストコース 現代美術 (版画、絵画、インスタレーション) ルネサンス・マネリスムの 画像解釈
- 野村 伸介 フロタクトコミュニケーションコース フロタクトデザイン 3Dモデリング デジタルファブリケーション プロトタイピング

マンガ学部

- 伊藤遊 学部共通/大学院マンガ研究科 民俗学
- マンガ研究
- 小田 隆 キャラクターデザインコース 絵画 イラストレーション (主に博物館や図鑑などに掲載)
- 美術解剖学
- 具本 媛 新世代マンガコース
- マンガ 表現論
- 関根 康正 客員教員 文化人類学 南アジア研究
- 陳 翼 キャラクターデザインコース 「動漫」概念史 アニメーション史 IPビジネス キャラクタービジネス
- 睦月 ムンク キャラクターデザインコース イラスト キャラクターイラスト マンガ
- コー・スギョン 学部共通/大学院マンガ研究科 表現論
- 遊佐 かずしげ アニメーションコース アニメーション映像
- 演出

人文学部

- 阿毛 香絵 学部共通 文化人類学
- アフリカ地域研究
- 現代社会とイスラーム
- 佐々木 美緒 学部共通 図書館情報学 図書館員養成
- 清水 貴夫 学部共通 文化人類学 アフリカ地域研究
- 藤枝 絢子 学部共通 人間環境設計論 地域研究
- 水田 拓郎 学部共通 ターンテーブルリズム 即興・実験・電子音楽 メディア・アート
- 南了太 学部共通 産官学連携論
- 京都学
- 吉元 加奈美 歴史専攻
- 日本近世史
- 都市史・地域社会史
- 大学院 芸術研究科 岡田 温司 西洋美術史 思想史

【職員】

- 経営企画グループ 神島武 森定 肇
- 総務グループ 足立直人 齋藤 希
- 教学グループ 加藤 由佳 中島 聡子
- 広報グループ 廣永 えりか
- 研究推進グループ 彌永 えりか
- 京都国際マンガミュージアム 鈴木 美智子
- 共通教育機構 鹿野利春 客員教員 情報教育 教育の情報化 指導と評価 アクティブラーニング 教育行政 文化行政 研修設計 プログラミング データサイエンス コンピュータ設計&制作
- 創造戦略機構 米原 有二 伝統産業イノベーションセンター長 工芸

貸借対照表

(単位:円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	24,696,713,030	25,114,419,136	△ 417,706,106
有形固定資産	16,534,859,446	16,960,637,885	△ 425,778,439
土地	4,214,991,704	4,214,967,496	24,208
建物	10,282,419,481	10,646,947,382	△ 364,527,901
構築物	109,807,828	144,617,375	△ 34,809,547
教育研究用機器備品	750,726,679	777,085,645	△ 26,358,966
管理用機器備品	24,482,848	26,464,906	△ 1,982,058
図書	1,152,396,765	1,150,469,740	1,927,025
車両	34,141	85,341	△ 51,200
特定資産	7,952,387,637	7,851,147,521	101,240,116
第3号基本金引当特定資産	150,000,000	150,000,000	0
退職給与引当特定資産	1,365,727,116	1,364,487,000	1,240,116
減価償却引当特定資産	6,436,660,521	6,336,660,521	100,000,000
その他の固定資産	209,465,947	302,633,730	△ 93,167,783
電話加入権	3,633,424	3,633,424	0
ソフトウェア	29,030,849	8,595,763	20,435,086
有価証券	0	100,000,000	△ 100,000,000
長期貸付金	172,036,354	185,639,223	△ 13,602,869
保証金	4,765,320	4,765,320	0
流動資産	3,877,404,984	3,762,901,030	114,503,954
現金預金	3,611,630,129	3,505,412,530	106,217,599
未収入金	190,581,132	184,035,245	6,545,887
貯蔵品	16,702,796	10,735,387	5,967,409
短期貸付金	28,918,620	29,169,620	△ 251,000
立替金	7,270,384	4,470,658	2,799,726
前払金	22,192,230	27,586,159	△ 5,393,929
仮払金	0	1,491,431	△ 1,491,431
預ケ金	109,693	0	109,693
資産の部合計	28,574,118,014	28,877,320,166	△ 303,202,152

(単位:円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	2,329,202,914	2,722,395,010	△ 393,192,096
長期借入金	957,474,000	1,336,242,000	△ 378,768,000
退職給与引当金	1,371,728,914	1,386,153,010	△ 14,424,096
流動負債	1,520,954,724	1,378,722,966	142,231,758
短期借入金	378,768,000	186,258,000	192,510,000
未払金	165,239,269	129,591,096	35,648,173
前受金	823,452,620	925,853,934	△ 102,401,314
預り金	153,494,835	137,019,936	16,474,899
負債の部合計	3,850,157,638	4,101,117,976	△ 250,960,338
基本金	29,521,149,803	29,183,351,660	337,798,143
第1号基本金	28,947,149,803	28,609,351,660	337,798,143
第3号基本金	150,000,000	150,000,000	0
第4号基本金	424,000,000	424,000,000	0
繰越収支差額	△ 4,797,189,427	△ 4,407,149,470	△ 390,039,957
翌年度繰越収支差額	△ 4,797,189,427	△ 4,407,149,470	△ 390,039,957
純資産の部合計	24,723,960,376	24,776,202,190	△ 52,241,814
負債及び純資産の部合計	28,574,118,014	28,877,320,166	△ 303,202,152

決算および予算について

学校法人京都精華大学の2019年度決算および、
2020年度予算についてご報告いたします。

2019年度決算について

2019年度の事業活動収入は前年度から6千万円減少し、54億7千万円でした。このうち学生納付金は83.4%を占めています。事業活動支出(人件費・経費等)は55億3千万円で、当年度の基本金組入前収支差額は5千万円の支出超過となりました。また、基本財産取得に関わる金額を示す基本金組入額は3億4千万円となりました。主には、学内施設の諸改修工事や情報通信ネットワークの整備等による施設関係支出6千万円とコンピュータ教室の設備更新、その他経常的な備品の充実等による1億2千万円の設備関係支出を第1号基本金として組み入れました。なお、基本金組入後の翌年度繰越収支差額は支出超過額が48億円に増加しました。

支払資金(現金・預金)は前年度比1億1千万円増の36億1千万円となりました。但し、大学の資産全体としては固定資産の減少などにより3億円の減少です。また、前受金の減少や借入金の返済等により、負債は2億5千万円が減少しました。これらによって、純資産は5千万円減少しました。

以上の結果、純資産構成比率は0.7%上昇し、86.5%となりました。

事業活動収支計算書

(単位:円)

	科 目	金 額	
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,565,158,250	
	手数料	77,723,934	
	寄付金	17,655,049	
	経常費等補助金	165,824,189	
	国庫補助金	163,985,000	
	地方公共団体補助金	1,839,189	
	付随事業収入	356,639,352	
	雑収入	195,577,383	
	教育活動収入計	5,378,578,157	
	人件費	3,020,111,418	
事業活動支出の部	教育研究経費	1,839,670,353	
	管理経費	619,741,248	
	徴収不能額等	4,026,800	
	教育活動支出計	5,483,549,819	
	教育活動収支差額	△ 104,971,662	
	教育活動外収入の部	受取利息・配当金	75,743,873
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	75,743,873
		借入金等利息	21,758,625
	事業活動支出の部	その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計		21,758,625	
教育活動外収支差額		53,985,248	
経常収支差額		△ 50,986,414	
特別収支	資産売却差額	1,293,000	
	その他の特別収入	19,370,622	
	特別収入計	20,663,622	
	資産処分差額	21,914,382	
	その他の特別支出	4,640	
特別支出計	21,919,022		
特別収支差額	△ 1,255,400		
基本金組入前当年度収支差額	△ 52,241,814		
基本金組入額合計	△ 337,798,143		
当年度収支差額	△ 390,039,957		
前年度繰越収支差額	△ 4,407,149,470		
翌年度繰越収支差額	△ 4,797,189,427		
(参考)			
事業活動収入計	5,474,985,652		
事業活動支出計	5,527,227,466		

資金収支計算書

(単位:円)

	科 目	金 額
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,565,158,250
	手数料収入	77,723,934
	寄付金収入	29,907,235
	補助金収入	165,892,189
	国庫補助金収入	164,053,000
	地方公共団体補助金収入	1,839,189
	資産売却収入	101,476,036
	付随事業・収益事業収入	356,639,352
	受取利息・配当金収入	75,743,873
	雑収入	195,964,703
支出の部	借入金等収入	0
	前受金収入	823,452,620
	その他の収入	1,023,293,644
	資金収入調整勘定	△ 1,116,383,066
	前年度繰越支払資金	3,505,412,530
	収入の部合計	9,804,281,300
	人件費支出	3,034,535,514
	教育研究経費支出	1,302,540,817
	管理経費支出	586,233,420
	借入金等返済支出	21,758,625
借入金等返済支出	186,258,000	
施設関係支出	62,519,892	
設備関係支出	124,368,544	
資産運用支出	899,947,116	
その他の支出	151,459,597	
資金支出調整勘定	△ 176,970,354	
翌年度繰越支払資金	3,611,630,129	
支出の部合計	9,804,281,300	

2020年度予算について

2020年度は新明窓館(仮)と新教室棟(仮)の建設を予定しているため、通常の経常支出予算に加え、これらに要する予算も資金収支予算、事業活動収支予算の各費目に計上しました。一方、収入予算は学生数増加による授業料収入の増収等を見込み、事業活動収入全体で前年度から3億9千万円の増加としています。以上の結果、単年度の事業活動収支は基本財産取得に関わる基本金組入等を含めると4億6千万円の支出超過となりますが、基本金組入前の収支は収入超過の状態を確保します。なお、当年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により弾力的な予算措置を行っているため、例年5月に行っている年度当初予算の確定を先送りし、現段階ではこれら要素を含まない暫定予算として取りまとめています。

事業活動収支予算書

(単位:円)

	科 目	金 額	
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,814,782,000	
	手数料	77,950,000	
	寄付金	29,000,000	
	経常費等補助金	413,664,000	
	付随事業収入	389,280,000	
	雑収入	38,760,000	
	教育活動収入計	5,763,436,000	
	人件費	3,040,175,000	
	教育研究経費	1,974,258,000	
	管理経費	542,003,000	
事業活動支出の部	徴収不能額等	0	
	教育活動支出計	5,556,436,000	
	教育活動収支差額	207,000,000	
	事業活動収入の部	受取利息・配当金	68,721,000
		教育活動外収入計	68,721,000
	事業活動支出の部	借入金等利息	23,593,000
		教育活動外支出計	23,593,000
	教育活動外収支差額	45,128,000	
	経常収支差額	252,128,000	
	事業活動収入の部	資産売却差額	2,529,000
その他の特別収入		28,500,000	
特別収入計		31,029,000	
事業活動支出の部		資産処分差額	74,669,000
		特別支出計	74,669,000
特別収支差額	△ 43,640,000		
(予備費)	0		
基本金組入前当年度収支差額	208,488,000		
基本金組入額合計	△ 663,947,000		
当年度収支差額	△ 455,459,000		
前年度繰越収支差額	△ 4,611,299,470		
翌年度繰越収支差額	△ 5,066,758,470		
(参考)			
事業活動収入計	5,863,186,000		
事業活動支出計	5,654,698,000		

資金収支予算書

(単位:円)

	科 目	金 額
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,814,782,000
	手数料収入	77,950,000
	寄付金収入	55,000,000
	補助金収入	413,664,000
	資産売却収入	0
	付随事業・収益事業収入	389,280,000
	受取利息・配当金収入	68,721,000
	雑収入	38,760,000
	借入金収入	2,000,000,000
	前受金収入	1,023,181,000
支出の部	その他の収入	773,640,000
	資金収入調整勘定	△ 1,086,748,000
	前年度繰越支払資金	4,071,896,500
	収入の部合計	12,640,126,500
	人件費支出	3,031,625,000
	教育研究経費支出	1,441,123,000
	管理経費支出	514,929,000
	借入金等利息支出	23,593,000
	借入金等返済支出	216,690,000
	施設関係支出	1,478,360,000
設備関係支出	365,397,000	
資産運用支出	700,000,000	
その他の支出	111,500,000	
(予備費)	0	
資金支出調整勘定	△ 112,000,000	
翌年度繰越支払資金	4,868,909,500	
支出の部合計	12,640,126,500	

Student
07京都精華大学
KYOTO SEIKA UNIVERSITY新型コロナウイルス感染症拡大をふまえた
学修支援と経済支援を実施

2020年春、新型コロナウイルスの感染が拡大し緊急事態宣言が出されました。京都精華大学では感染防止のため、キャンパス入構禁止の措置をとり、前期の全科目を遠隔授業で行います。遠隔授業に対応できる学修環境の整備や一部奨学金の拡充、受講用タブレットの貸与、図書貸出の郵送サービス等、現状に対応する学生のみなさんへの支援をこれまで以上に推進しています。情報は随時更新しますので、本学ウェブサイトをご確認ください。また、上記の支援に関連した寄付の募集も行っております。

新型コロナウイルス感染症拡大をふまえた
京都精華大学の学修支援と経済支援について

【卒業生のみなさまへ】
研究アンケートご協力をお願い

「アートシンキングとデザインシンキングの融合／『セイカシンキング』の研究開発」(主任研究者:デザイン学部教員 森原規行)を通して、本学らしい教育プログラムの開発に取り組んでいます。QRコードからアンケートにアクセスし、在学中に印象に残った学びなどを教えてください。

「セイからしさ研究」
アンケートページ

活躍する在学生、卒業生の
情報を募集しています。

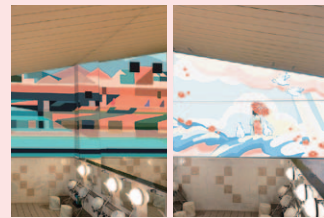
多数の在学生が社会貢献活動やコンテストでの受賞など広く活躍をしています。詳細はぜひウェブサイトをご覧ください。また、今後も木野通信では、活躍する在学生や卒業生情報を紹介していく予定です。情報をお持ちの方は、広報グループまでお知らせください。

- 京都精華大学 ウェブサイト
https://www.kyoto-seika.ac.jp
- 広報グループ
kouhou@kyoto-seika.ac.jp

News
0516本の研究論文を収録した
『京都精華大学紀要』第53号発行

『京都精華大学紀要』第53号が完成しました。『京都精華大学紀要』は年1回発行している、本学教職員と大学院生(博士後期課程)による論文集です。1991年に第1号を発行して以来、研究成果の発表の場として、本学の研究活動を活性化する役割を担っています。今回の53号では、思想、教育、美術、デザイン、景観などさまざまな領域に及び16本の研究論文を掲載しています。部数に限りがあるため一般配布は行っていないですが、全学研究センターのウェブサイトで全文公開しています。本学の教育研究の成果の一部をぜひ、ご覧ください。

全学研究センター ウェブサイト

Student
06デザイン学部イラストコースの学生が
京都の銭湯の壁画を制作

2020年3月、朝陽物産(株)と共同し、中京区「壬生温泉 はなの湯」にて学生による「男女浴室壁画」の公開制作を行いました。同銭湯の壁画には、銭湯絵師・田中みづき氏による力強いタッチの富士山(男湯)そして大文字山と舞妓(女湯)が描かれていましたが、壁画の老朽化、絵師の人口減少や高齢化により、剥離や色落ちの修繕がされないままでした。そこで今回、若い感性による新しい壁画の創造をめざし、本学デザイン学部イラストコースの中辻作太郎さんと加藤奈緒子さんがデザインを担当し、7名の学生の協力のもと、壁画を制作。現役の大学生が銭湯の壁を描くことは全国的にも大変珍しく、既存の慣習にとらわれない「現代アート」「イラストレーション」が銭湯の壁面を飾ったことが話題になりました。

News
03高校生の創作活動を応援する
「SEIKA AWARD 2020」を開催

高校生の自由な創作活動の応援と新しい才能の発見を目的とした、第1回創作作品コンペティション「SEIKA AWARD 2020」を2020年3月に開催しました。初開催となる今回、全国から826点ものハイレベルでフレッシュな作品の応募があり、厳選なる審査の結果SEIKA AWARD賞1点、優秀賞2点、奨励賞10点、入選130点をそれぞれ選出しました。入選作品・審査結果は、ウェブサイトにて公開しています。京都精華大学の認知度を全国の高校生に広げた同コンペティションはさらなる発展を目指して、第2回「SEIKA AWARD 2021」の開催に向けて始動しています。

SEIKA AWARD ウェブサイト

News
04

高見島プロジェクトメンバー

京都精華大学学長表彰
2019年度受賞者決定

同賞は本学の名誉を高める功績を収めた本学関係者を表彰するものです。厳正な選考の結果、2019年度は下記の2名と1組が受賞しました。

【学長賞】
William Wood
(マンガ研究科 修士課程1年)

【学長特別賞】
高見島プロジェクト
(教員・卒業生・学生によるグループ)

【卒業生功労賞】
中村佳穂
(人文学部 総合人文学科 2016年卒業。ミュージシャン)

News
01今この「表現」とは何か
新しい視点を提示した「RAKE UP!」展

2019年8月から9月にかけて、京都市南区のHOTEL ANTE ROOM KYOTO Gallery9.5にて、企画展「RAKE UP!」を開催しました。RAKE(レーキ)とは「熊手」のことで、RAKE UPは「かき集める」、「すくい上げる」行為を指す言葉です。本展のねらいはその名の通り、日用品から廃材、ネット上に存在するモノまで、対象をフラットに収集、編集し、新しい視点をもたらすこと。大八木夏生、THE COPY TRAVELERS、大東真也、NAZE、やんツーという、本学に関わる新進気鋭のアーティストたちが、各々の「RAKE=熊手」を使ってかき集めた世界は、その意味や記憶、関係性を揺さぶり、「表現」とは何かを再考させる展示となりました。

Student
02京都・伝統産業の工房・企業に弟子入り
学んだ成果を学生たちが披露

2019年11月から12月にかけて、「京都の伝統産業演習」報告展を京都精華大学ギャラリーフールドで開催しました。本学は、1980年より約40年にわたり、京都の伝統産業に携わる工房・企業の現場に夏期の約2週間、弟子入りして学ぶ「京都の伝統産業演習(学外実習)」プログラムを実施しています。2019年度も染織、陶磁器、和紙、木工芸、金工芸、文化財修復などのさまざまな分野の演習先17社で、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部の3、4年生30名が演習を行いました。今回の展示は、このプログラムの成果発表報告展として行ったものです。展示に加え、学生が工房体験や制作した作品について語る実習生トークや、専門家による連続講義も関連イベントとして実施しました。